

茨城県立笠間陶芸大学校開校記念展

# 現代陶芸・案内(ガイド)

洗練・華麗・増殖 —進化するフォルム

プレス・リリース

2016年7月16日(土)～9月11日(日)



⑩

茨城県陶芸美術館

〒309-1611茨城県笠間市笠間2345番地（笠間芸術の森公園内）

Tel:0296-70-0011 Fax:0296-70-0012 <http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

## 1 展覧会名

茨城県立笠間陶芸大学校開校記念展

# 現代陶芸・案内（ガイド）

（キャッチコピー）

洗練・華麗・増殖 ー進化するフォルム

## 2 開催趣旨

### A：一言でいうと（127文字）

本年4月、現代陶芸をリードし世界に羽ばたく人材の輩出を目指し、県立笠間陶芸大学校が開校しました。この機に戦後の陶芸界を牽引した作家、新進の若手作家、海外の著名作家による作品を一堂に集めた展覧会を開催し、現代陶芸の魅力を分かりやすくご案内（ガイド）します。

### B：もう少し丁寧にいうと（288文字）

日本の陶芸は今日、かつてないほどの活況を呈しています。特に2000年以降、従来の陶芸のイメージを変えるような、シャープで洗練された新しい形の器や、微細なパーツが密集し増殖する生き物のようなオブジェ、伝統の表現に拠りながらも現代的な感覚の器など、新しいスタイルの作品をつくる作家が次々と登場しています。

茨城県では本年4月、現代陶芸をリードし、世界に羽ばたく人材の輩出を目指し、県立笠間陶芸大学校が開校しました。この機に、戦後の陶芸界を牽引した作家、新進の若手作家、海外の著名作家に至るまでの、様々な作品を一堂に集めた展覧会を開催し、現代陶芸の魅力を分かりやすくご案内（ガイド）します。

### C：詳細にいうと（569字）

日本の陶芸は今日、かつてないほどの活況を呈しています。特に2000年以降、従来の陶芸のイメージを変えるような、シャープで洗練された新しい形の器や、微細なパーツが密集し増殖する生き物のようなオブジェ、伝統の表現に拠りながらも現代的な感覚の器など、新しいスタイルの作品をつくる作家が次々と登場しました。彼らは、土を形にし、釉薬をかけ、焼成するという陶芸のプロセスに沿いながら、そこに現代の感覚を反映させることで斬新な作風を生み出しています。

こうした背景には、近代の作家たちが伝統のスタイルを尊重しつつも、そこに自身の感性をぶつけていくことで、新たな造形を生み出してきた歴史があります。それが現在、他国に類をみないほどの多様性をみせる現代日本陶芸の発展の土壌となったのです。

茨城県では2016年4月、現代陶芸をリードし世界に羽ばたく人材の輩出を目指し、県立笠間陶芸大学校が開校しました。この機に、戦後の陶芸界を牽引した作家から、新進の若手作家、さらには海外の著名作家に至るまでの、様々な作品を一堂に集めた展覧会を開催し、「難しい」「分からない」と思われがちな現代陶芸を分かりやすくご案内（ガイド）します。

作家を目指す方々の新たな創造のヒントになることを期待するとともに、陶芸についての知識がある方もない方も、現代陶芸の魅力に触れるきっかけとなれば幸いです。

## 3 展示構成

出品総数 約135点

第1章 伝統の器の成熟 富本憲吉、加守田章二、松井康成

第2章 オブジェの出現と進化 八木一夫、熊倉順吉

第3章 平成10年代以降の様式

①伝統工芸の新風 井上萬二、前田昭博

②新しい感覚の器 新里明士、和田的

③装飾過剰 植葉香澄、藤井美佳

④立体造形の展開 五味謙二、田中知美、齋藤敏寿

⑤フィギュア 北川宏人

〈特集展示：海外の動向〉 ハンス・コパー、ロゼリン・デリール

〈特集展示：茶碗の展開〉 荒川豊藏、十五代樂吉左衛門

など

#### 4 主な作品（作品キャプション）

①	八木一夫	曲	1964年	岐阜県現代陶芸美術館蔵
②	加守田章二	曲線文扁壺	1970年	岐阜県現代陶芸美術館蔵
③	熊倉順吉	ジャズの城	1977年	岐阜県現代陶芸美術館蔵
④	井上英基	碧彩鉢	2015年	当館蔵
⑤	新里明士	光水指	2011年	個人蔵
⑥	五味謙二	彩土器	2013年	岐阜県現代陶芸美術館蔵
⑦	田中知美	ある夜の出来事	2014年	当館蔵
⑧	藤井実佳	女子力増殖マシーン	2014年	個人蔵
⑨	齋藤敏寿	水蒸気破裂98911	1989年	岐阜県現代陶芸美術館蔵
⑩	和田的	宇宙への階段	2014年	個人蔵

#### 5 会期・会場等

会 期：2016年7月16日(土)～9月11日(日) (50日間)

会 場：茨城県陶芸美術館 地下1階企画展示室

開館時間：午前9時30分から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）

休 館 日：月曜日（ただし、（ただし、7月18日(月・祝)は開館、19日(火)休館、8月15日(月)は臨時開館）

#### 6 主催・協賛等

主催：茨城県陶芸美術館

協賛：筑波銀行

#### 7 観覧料

一般720(570)円 高大生510(410)円 小中生260(210)円

\* ( )内は20名以上の団体料金。満70歳以上の方、障害者手帳、療育手帳をお持ちの方及び付き添いの方〔ただし1人につき1人まで〕は無料。7月16日(土)、9月3日(土)、9月10日(土)は高校生以下無料。

#### 8 関連催事 \*詳細は後日、チラシやホームページ等にてお知らせします。

##### ○出品作家と当館館長によるシンポジウム

日時：7月16日(土) 13:30～15:00

会場：当館1階多目的ホール(聴講無料)

講師：今泉毅氏、新里明士氏、水元かよこ氏、和田的氏、金子賢治(当館館長)

定員：120名(先着順)

##### ○申込制ワークショップ ※展覧会チケットが必要です。

「陶のオブジェに明かりを灯そう」 特別協力：笠間陶芸大学校

日 時：7月31日(日) 10:30～14:00および8月21日(日) 10:30～12:00

場 所：当館1階多目的ホールほか

内 容：明かりを灯したときに素敵に見える作品を制作するワークショップです。1回目に粘土で形をつくり、2回目に焼成した作品にアクリル絵の具で色を塗ります。

参加条件：小・中学生(小学4年生以下は保護者の同伴が必要)、2日間とも参加できる方

定 員：20名程度

参 加 費：無料

申込方法：電話またはFAXにて事前申込(先着順)

申込開始日：7月10日(日)9:30～

##### ○親子で楽しむギャラリートーク ※展覧会チケットが必要です

担当学芸員が展覧会をご案内します。7月30日(土)・8月20日(土) 13:30～

9 連絡先

茨城県陶芸美術館 〒309-1611 笠間市笠間2345番地（笠間芸術の森公園内）

TEL.0296-70-0011 / FAX.0296-70-0012

展覧会担当 学芸課 名村 実和子

広報担当 企画管理課 中島 淳 [kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp](mailto:kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp)

※プレスリリース用写真データ

広報担当のE-Mailアドレス [kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp](mailto:kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp) までご連絡いただければ、すぐにデータをお送りいたします。写真を掲載する際には“4 主な作品”に記載されている、それぞれの作品キャプションを併記してください。

①



②



③



④



⑤



⑦



⑥



⑨



⑧

